

灯



私の学園は昭和14年の開校以来、女子教育に専念してきたが、少子化や男女共同参画社会への動きに対応して、くしくも元号違いの平成14年、男女共学に踏み切った。

当初は男子が廊下を歩いていると妙に違和感があったものだが、最近は当たり前前の自然な風景になってきた。

育

競



草野 義輔

共学化にあたり、長く掲げてきた三綱領「努力精進、明朗融和、感謝奉仕」に加えて何か新しい教育方針を打ち出すほうがよい、と周囲から勧められた結果「三つのきょういく」という考えに思い至った。

まず第一のきょういくは「教育」で、これは教えて育つという普遍的なもので、第二は「共育」とした。これは男女

が共に学ぶということと同時に、教える側も教わる側も共に学ぶという思いを込めた。

そして第三は「競育」とした。学力は当然、さまざま能力を伸ばすには良い意味での競争がなくてはならない、と考えたからだ。

今年ノーベル化学賞を受賞された米国・パデュー大学の根岸教授は、里帰りした際の文部科学大臣との対談で「健全な競争が学問の世界にも必要だ」と話されたと報

道されている。

競争という言葉は、教育界では一部タブー視するようない秀囲気があるが、共学時にあって「競育」を新たな方針の一つに加えた者にとって、ノーベル賞受賞者の言葉は大きな励みに聞こえた。

(昭和学園高校理事長・日田市)